

科目名	世界史B	単位数	3	必修選択	選択
教科書	詳説世界史 改訂版 (山川出版社) 地歴高等地図 ー現代世界とその歴史的背景ー (帝国書院)				
副教材	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店) 新世界史研究ノート標準編 (啓隆社)				

### 教科・科目の内容

1年次の世界史Aでは、近現代史を中心に世界情勢の流れを学びました。世界史Bでは、人類が誕生し文明をつくりだすところから、産業革命までの時代を中心に学びます。

世界史Aのシラバスにあったように、年表の暗記や人名や出来事を覚えることだけが歴史を学ぶことではありません。歴史事象に対して、5W1H (いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのようにしたのか) を常に意識していくことが大切ですし、面白いところでもあります。

一通り学習が終了したら、AとBで学んだことを復習していきます。学習した内容を振り返ることで、世界史全体の事象のつながりを意識できるようにしていきます。

### 日常生活や将来とのつながり

2020年は新型コロナウイルスによるパンデミックが世界中で大きな問題となりました。しかし、世界史を学ぶと14世紀におけるペストの大流行、20世紀におけるスペイン風邪など人類が感染症によるパンデミックに度々直面してきたことが分かります。では人類はそうした危機をどのように乗り越えてきたのでしょうか。歴史を学ぶことは未来への自分、人類にとっても有益なことであると考えられます。

また、グローバル化する現代社会において、あなた方はこれまで以上に世界との関りが深くなるでしょう。その時に日本のことだけでなく、広い視野で多角的に世界を見る力が求められます。世界史を学ぶことで、現代の国際問題を理解し、適切な判断ができる力を身に付けてもらいたいと思います。

### この授業の学習方法(予習と授業の関わり)

世界史を学ぶ上で重要なことは、時間軸と空間軸を把握し、歴史の「流れ」をつかむことです。それぞれの用語を覚えることも大切ですが、それ以上に「どのような時代」であるのかという歴史の大きな流れを意識しましょう。予習として教科書を読んでおくこと、復習としてノートを見直しまとめ用のノートをつくるなど、主体的に学ぶことが大切です。また、地図を活用することで、ビジュアル的に歴史を理解すると定着度が上がるでしょう。

### 到達目標

人類が積み重ねてきた多くの歴史事象を理解することで、現在の社会現象を客観的に見ることができるようになり、変化の激しい現代を生き抜く力を身につけることです。

### 評価の観点(評価方法)

#### ① 関心・意欲・態度 (活動状況・ワークシート・ノート)

世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。

#### ② 思考・判断 (活動状況・ワークシート・定期試験)

世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に考察し国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

#### ③ 資料活用の技能・表現 (活動状況・ワークシート・定期試験)

世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取り、図表にまとめている。

#### ④ 知識・理解 (小テスト・定期試験)

世界の歴史について基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

指導学年	科目名	単位数	教科書名（出版社）	副教材名
3年	世界史B	3	詳説世界史 改訂版（山川出版社） 地歴高等地図 ー現代世界とその歴史的背景ー（帝国書院）	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 新世界史研究ノート標準編（啓隆社）

学期	学習内容	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価の観点			
			関	思	技	知
一学期	世界史への扉	・過去のできごとが現在の自分たちの生活と結びついていることを理解させ、興味と関心をもたせる。教科書で投げかけられている問いに答えることを通じて、歴史を学ぶ意義に気づかせる。				
	序章 先史の世界	・進化図や道具図、洞穴絵画などの図版や写真、教科書に掲載されている諸言語の系統分類表を適切に活用している。				
	第1章 オリентと地中海世界	・オリент・地中海両世界とそれをまとめあげたヘレニズムおよびローマについて関心を持ち、追究している。				
	第2章 アジア・アメリカの古代文明	・インダス文明の都市的な性格、インドの王朝の発展と宗教との繋がり、南インドの非アーリヤ人王朝の動向を多角的に考察する。 ・古代文明の成立から変動期における、思想・文化について歴史的背景から考察し、表現できる。	○	○	○	○
	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・遊牧民の活動と中華王朝の変遷が深く関連していることを理解し、考察できている。また、魏晋南北朝から五代十国までの中華王朝と遊牧民の活動を関連づけて理解している。				
	※ 中間試験・ノート点検		○	○	○	○
二学期	第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム成立の背景と、地域・民族の枠をこえて拡大する理由について、イスラームの普遍性という観点から理解できている。	○	○	○	○
	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・ヨーロッパ社会の形成を封建社会の成立と変容、教皇権と皇帝権や王権との対決などの観点から総合的にとらえることができている。				
	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・モンゴル帝国が内陸アジア諸都市の、また元朝が海域のネットワークを支配下においた意味を、社会経済的な視点から考察する。				
	第7章 アジア諸地域の繁栄	・東アジアにおける明・清を中核とした国際関係と、イスラーム諸王朝が成熟させた独自の文明に関心を持ち、追究している。	○	○	○	○
	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	・大航海、宗教改革がヨーロッパ世界に変革をもたらし、新たな時代が展開されていったことに関心を持ち、追究している。				
	※ 中間試験・ノート点検		○	○	○	○
三学期	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	・各国の変革と近代的な国際関係の成立を理解し、また英仏の覇権争いがなぜ世界各地に及ぶものであったのかを考察し、表現できる。				
	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・ヨーロッパ各国が状況に応じた変革を行っていく中で、近代的な国際関係が形成されていったことを理解している。 ・産業革命・市民革命の前後で、生活や社会のあり方がどのように変化したかを、さまざまな視点から追究している。 産業革命で変化した社会、およびアメリカ独立・フランス革命によって形成された「国民国家」は、従来とはどのような点で異なるのか説明できる。	○	○	○	○
	※ 期末試験・ノート点検		○	○	○	○
三学期	まとめ	世界史A・Bを通して学んだ古代から現代までの歴史について、問題演習等を通して復習する。	○	○	○	○
	※ 学年末試験・ノート点検		○	○	○	○

備考	
----	--